

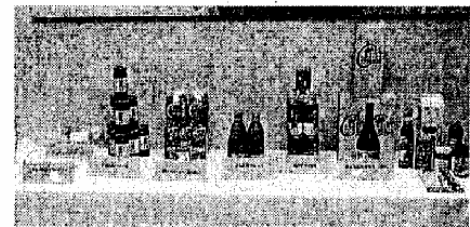
日本カムカム普及協会

住所：144-0052 東京都大田区蒲田 4-25-7 ハネサム 21 6F
電話：03-3738-2831

2004.6.14 日本食糧新聞

日本カムカム普及協会が発足

ペルー産 国内での消費促進を図る



日本カムカム普及協会（東京都中央区、03・3523・2745）は5月26日、東京・渋谷区のペルー大使館で、同会発足記念パーティー「カムカム」ハッピーナイトを開催した。

同会は、ペルーが誇る果実「カムカム」の日本国内での消費、普及拡大を促進、日本人の食生活の向上に寄与するとともに関連する団体、学会、行政などとの連携を密にし、ペルー国との経済友好関係をさらに発展させる一助となることを目指している。

ルイス・マキヤベロ駐日ペルー大使（名誉会長）は「カムカム」の存在と特性を知ってもらい、その普及を目的にしている日本カムカム普及協会との共働がある。ペルーは豊かな土地に恵まれ、日本市場で注目

を集めているマカやキャッサ・クロー、ヤーコンなど多種多様な薬効植物や、栄養価の高い植物が存在している。何年にもわたりペルー政府は健康への大きな利点のある「カムカム」を国の重要農作物として普及に

力を入れてきた。そしてペルーと反対側に位置する、日本で同様の目的を持った日本カムカム普及協会を設立した。「カムカム」はアセロラの二倍、レモンの六〇倍のビタミンCを含む驚異的な果実である。現地では果肉は清涼飲料に加工され古くから親しまれてきた。

現在はジュースやアイスクリーム、アメ、ゼリーなどに使用され、また、当然

のことでビタミンC補給用のサプリメントとしても広く消費され、料理の調味料としても使われている。皆様とこの驚異のアマゾンフルーツを試食し、時を過せることは誠に喜ばしい。「カムカム」が口に合えば「幸いである」とあいさつした。

小西芳三会長は「数あるペルーの農産物のなかで、日本人の健康志向に訴えるものはいくつもあり注目されている。その一つである

「カムカム」に早くから着目し、日本国内への紹介と啓蒙に努めてきた。アンデスアマゾンの上流で自生している自然な植物が健康に良いということも国内でも消費されている。「カムカム」が日本人の健康増進に寄与し、両国の友好をより一層深める一助になればとの願いを込めている」とあいさつした。

東京海洋大学ヘルスフード科学講座山口宏二客員助教授は「カムカムの特徴とその将来性について」の説

明で、「カムカム」一〇〇gあたりのビタミンCは完熟時二七八〇mg、半熟時二九四mg含有している。ビタミンCの抗酸化作用、ビタミンCに期待される作用として肌、骨、脳などの身体の機能維持、生活習慣病の予防、抗感染作用、抗酸化作用、他の体内成分の調節、解毒作用、抗アレルギー作用などがあり「カムカム」は万能なフルーツである。「カムカム」の消費が伸びればコカインの撲滅にもつながるなどと結んだ。

◇ 協会組織▽名誉会長
ルイス・マキヤベロ氏（駐日ペルー大使）▽会長
小西芳三氏（元駐ペルー日本大使）▽理事
ルイス・前園氏（ペルー国立ラ・モリナ農業大学副学長）、山田宏二氏（東京海洋大学大学院助教授）、天地純子氏（歌手、あゆみの箱理事）▽顧問
村田晃氏（佐賀大学名誉教授）、斎藤実（㈱日本食品分析センター）常任顧問。